

毎日おいしいご飯を食べよう

「学校給食メニュー料理教室～角田市の学校給食に学ぼう！」を6月9日（木）に角田市民センターで行い、22名が参加しました。

学校給食センターの元調理員で栄養士の上澤英子さんの指導のもと、ある日の学校給食メニュー（豚肉のオニオン焼き、コーン入卵スープなど）を作りました。また角田地区ふるさと安心米生産組合協議会会長の高橋健一さんから食材供給についてお話いただきました。

<参加しての感想／緑・食部会 秋山一巳>

角田の子どもたちは毎日地元のおいしい産直米が食べられ、すばらしいと思ったことと、全国に広まることを願っている。生産者の話しからセンター方式では、地元野菜が経済的に使いづらい由。日本の食文化を守る立場では、経済効率優先を卒業し、自校方式に変えるしかないことを痛感した。



調理の様子



ナツは暑いもの

今年も暑い夏が来るのでしょうか。地球温暖化は確実に進みつつあります。北極の氷が溶けています。氷河もどんどん溶けています。大地が乾燥し砂漠化が進行してたり、生物や植物にも大きく影響してくると予想されています。最近、政府の声がけでクールビズなるものが登場してきましたが、どうせならホットビ、ホットショップ、クールクール、クールテル、クールドラ、クールック（そういうかどうかは別ですが）なども考えてみたらいかがでしょう。



さて、暑い夏をどう過ごすか。夏は「あつい」ものだと過ごす方法を考えてみましょう。ヨーロッパでは長い長いバカンスを心待ちにし、都会から抜け出します。これも、車で走り回って、すぐ帰ってくるのでは温暖化を「促進」しますから、休みの少ない日本の場合にはもっともっと工夫が必要ですね。それから、人間も「汗」をかくものだということを認めたらどうでしょうか。また、スポーツのアセは尊くてかっこよくて、はたらきながらの汗をいやがるのでは困ってしまいます。「天はアセの上にアセを作らずアセの下にアセを作らず」です。このままでいくと何年か後には、外で遊んでいた子どもが「おかあさん。からだからみずがでてる。」ということがあるかもしれません。おかあさんは「おばあちゃんの時代じゃないんだから。サッカーの試合のとき以外はアセを出したら笑われるわよ。」と急いで子どもを家の中に入れるかもしれません。

そうそう、あつい夏にぴったりのスズキコージのとびぬけた「あつさのせい」（福音館）をおすすめします。くりかえし、くりかえし読むだけで、きっと夏が楽しくなりますよ。